

誰もが社会でいきいきと働くためのフィールドづくりを指す
障がい者が、健常者とともに席を並べて
一緒に働ける世界を作りたい

世界を変える起業家 (ビジコン in さいたま 2018 ぶぎん賞受賞企業) 有限会社 福祉ネットワーク さくら

“さいたま発の新ビジネスが、世界を、業界を、地域を変えてゆく”をテーマに革新的なビジネスモデルで新規事業に挑む起業家を表彰する「世界を変える起業家」(主催：公益財団法人さいたま市産業創造財団、共催：さいたま市) コンテストの第一回授賞式が2019年1月25日に行われた。同日はさいたま市内に事業所を構える起業家10人が最終審査にノミネートされて各賞が発表された。今回、「ぶぎん賞」を受賞した有限会社福祉ネットワークさくら、代表取締役社長の横山由紀子氏(協賛：武蔵野銀行 北浦和支店お取引先)に受賞テーマについて話をうかがった。



有限会社福祉ネットワークさくら
代表取締役社長 横山 由紀子 氏

——ビジネスプランを発想したきっかけについて教えてください。

5年前に障がいを持つ学生をインターンとして初めて引き受けました。都内の高校に通う2年生の女生徒2名を2週間、受け入れたのですが、障がい者でも自分が考えていた以上にできることがたくさんあり、受け入れ側の企業が工夫をすれば雇用できるのではないかと感じました。きっかけは、中小企業家同友会のメンバーから、障がい者を雇用すれば社風が変わると聞いて、当時、社内の人間関係で悩んでいたこともあり、受け入れました。それがきっかけとなり、2014年4月、2人のうち1人を正規雇用しました。当社にとって障がい者雇用は初めてでした。最初の1年は大変でした。高齢者を預かるデイサービスの部署に配属したのですが、うまく仕事ができずに外部から苦情も頂きました。途中、支援機関の専門家に指導を頂いたお陰で、1つ、また1つと仕事ができるようになり、次第に成長

していきました。

私はケアマネジャーを12年務めた経験があり、5年以上の経験者は相談支援専門委員の資格が取れます。2014年11月に自分で手を挙げて相談支援専門員を始めました。障がい者の自宅を訪問して、いろいろな話を聞くのですが、その時初めて“障老介護”という耳慣れない言葉を聞きました。障がいのある高齢の子供を介護する超高齢者家族です。

日本では、障がい者を受け入れる施設が十分に用意されていないので、障がい者は行く当てがなく、また生きている間に受け取れる年金が低いので、寿命を全うするまで十分な生活ができないというものでした。

当社のある浦和は、土地が高く生活介護事業所の数が余りありませんでした。そこで、何か支援できればと生活介護事業所「アトリエモモ」を2015年に立ち上げました。18歳から65歳まで

● 受賞したビジネスプラン ●

● 名称

「障害者の「働くチカラ」発掘事業
～誰もが社会でいきいきと働くためのフィールドづくり～」

● 商品・サービスの概要

1、就労トレーニング型 放課後デイサービス

中学生～高校3年生(障害児または医師から障害があると診断された軽度知的・発達障害児)を対象にした放課後や夏休みなどの長期休暇に利用できる就労トレーニング型通所サービス。社会性等を身に付け、一般企業への就職に繋げる。

2、介護施設への就職に特化した就労移行支援事務所

18歳～65歳(障害者または医師から障害があると診断された軽度知的・発達障害児)を対象とした介護施設への就職に特化した通所サービス。この事業所にて介護施設に必要とされる技術を取得し、訓練を重ね、介護施設での就労を目指す。

が対象で本社の3階に事業所を作りました。職員には過去に障がい者施設で働いた経験者がいて、送迎のノウハウもありました。翌々年17年には就労継続B型事業所を作り、新サービスとして洋菓子作りをスタートしました。

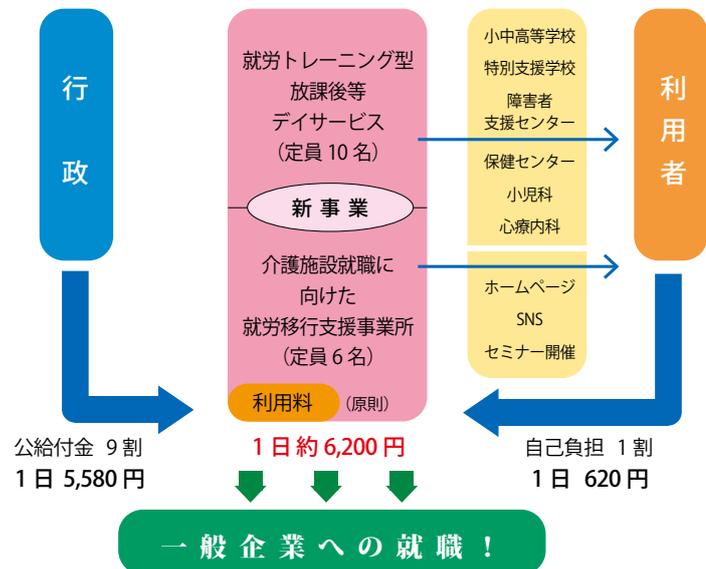
弊社の新卒障がい者雇用としては、これまでに3人を雇用しましたが、1人は2か月で退職しました。残り2人のうち1人は勤続4年になり、初任者研修の資格を取得し、弊社にとって貴重な戦力となっています。2019年5月からは自立して1人暮らしを始める予定です。しかし、現状では、障がい者の一般企業への就職率は低い状況にあります。経済的に自立し、安定した生活が送れることは、障がいのある子供を持つ親御さんの願いです。その願いを叶えるために、一般企業で働く自立した障がい者を増やしていきたいと今回のプランを考えつきました。

——ビジネスプランのポイントを教えてください。

障がい者の一般企業への就職率が低い理由を考えた時に、自宅や学校だけでは、社会に出るための全てのスキルを身につける事が難しい現状にある事が分かりました。

そこで、私は、障がいのある方が、学校を卒業して安心して社会で働ける訓練の場を提供したいと思いました。1つ目のプランは、中学生と高校生だけを対象にした放課後等デイサービスです。2つ目のプランは、特別支援学校や普通高校を出ても、すぐに就職できない方々のために2年間通う訓練施設として就労移行支援事業所を考えました。当社は介護サービスを提供する会社なので、介護分野に特化した就労移行支援事業所として運営したいと思っています。そうした介護分野に特化した就労移行支援事務所はこれまで日本には存在しませんでした。2021年に「キャリアモモ」の名称でスタート予定です。当初は訓練生として6人、特別支援学校の卒業生や引きこもりの方を対象に考えています。これから具体的なプログラムを作りますが、実践訓練は自社のデイサービスで

●ビジネスモデル図●



行う予定です。自社のベテランスタッフを講師に、デイサービスで自信がつくまで訓練します。近隣の高齢者施設と連携が取れていますので、実習終了後はそれらの介護施設に就職を斡旋できます。

障がい者を雇用したことで社風が変わりました。この1年間、離職者が1人も出ていません。彼女たちのお陰だと考えています。どの企業も障がい者を是非、雇用して欲しいです。障がい者が健常者と一緒に席を並べて働ける世界に変えて行きたいです。

——今後の目標を教えてください。

2023年に就労定着支援事務所を開所する予定です。2025年には小学生の放課後等デイサービス、2027年には児童発達支援事務所と2年ごとに新規サービスを立ち上げる予定です。私は2027年に還暦を迎えますが、その頃には障がい者と高齢者が地域住民とも協力して包括的なサービスを展開する「地域共生社会」が進むであろうと見ています。そこで、コミュニティ食堂を運営できればと夢見ています。地域の障がい者や高齢者、子供たちが集まるコミュニティスペースにしたい。私は管理栄養士の資格を持っていますが、今まで活かされずに来たので、最後にその資格を活かして社会に貢献したいです。